

福島県教育庁南会津教育事務所 総務社会教育課

文化財 NEWS

文化財パトロール ～ 檜枝岐村 尾瀬 ～

8月9日(水) 檜枝岐村において、文化財パトロールが行われました。今回は尾瀬ヶ原を所在地とする「**国指定特別天然記念物尾瀬**」の現地視察です。ここで、尾瀬の特徴と希少性について簡単に紹介します。

尾瀬には「日本最大の山地湿原である」尾瀬ヶ原と、火山堰止湖である尾瀬沼を中心に、大江湿原等の規模の異なる湿原が点在しています。尾瀬の自然環境はこれまで人の影響を受けないままに残されてきました。湿原や周辺の森林など広範囲に原始的な自然環境を残した地域は日本国内では少なく、その美しい景観を多くの人を楽しむことができる尾瀬は、実はとても希少な環境です。この貴重な尾瀬の環境と景観を守るため、計画的に実施している文化財パトロールに同行しました。



【休憩所からの景観】 沼山を出発して尾瀬沼を目指す木道には途中の高台に休憩所があります。ここは昔から尾瀬沼が見える展望台であり絶好のビュースポットでしたが、間にそびえ立つ木々に隠れてそれが見えなくなってしまいました。その状況を視察し、確認しています。



【侵入・食害防止柵】 鹿を中心とした動物による食害と侵入による植物への影響が問題となっています。湿原の入り口にはこのように柵を張り巡らせることによって侵入を阻んだり、二ホンジカ捕獲のためのわなが設置されたりしていました。シカが捕獲された際は、早く関係者に連絡しないと熊が来てしまうのだそうです。自然界は人間の思惑通りには行かないものですね。



【尾瀬沼と燧ヶ岳】 この日は好天にも恵まれて尾瀬沼と燧ヶ岳を一度に眺めることができる絶好のロケーションでした。さわやかな高原の風に当たりながら眺めるこの景色や希少な植物の姿を求めて、多くの観光客がこの地を訪れるのです。

文化財保護指導員
佐藤淳一先生(中央)

檜枝岐村教育委員会
平野暁史さん(左)



尾瀬地域は昭和9年(1934年)に日光国立公園の一部として国立公園に指定されました。その後平成19年(2007年)に全国で29番目の国立公園として日光国立公園から分離独立している貴重な地域です。今回のパトロールを通して尾瀬の美しい環境と現状、課題等を確認することができました。南会津が誇るこのすばらしい自然と環境を維持しながら、次世代にしっかりとつないでいきたいものです。